# 彼奴の歯

古戯都十全

彼奴の歯を折ったのは俺だ
彼奴の犬歯は半分に折れ、前歯の角は欠けた
不可抗力が俺をそうさせた
彼奴の臓腑の奥底に巣食う無色透明な憎悪が
俺の節くれ立った筋肉の運動を誘引したのだ
俺は不可抗力に泳いだだけだ

俺は彼奴を憎んでいない
彼奴の歯も憎んでいない
しかし俺は見た
彼奴の折れた犬歯と欠けた前歯の隙間から
彼奴の喉の奥のそのまた奥に
本来見えないはずの無色透明で

数えきれない突起をもつ岩のような塊が鎮座し
俺を激しく憎んでいるのを

俺は彼奴の歯の隙間から
彼奴の口内を通り喉の奥へと侵入し
透明な塊にかぶりつき飲み込むことで
憎悪の軛から逃れる心算に酔うが
いまや彼奴の歯もすべて透明になりつつあり
隙間の位置を見失った俺は
見えにくいが並んでいるはずの彼奴の歯の前で
湧き始めた己の憎悪に色を塗りたくる

彼奴の歯が邪魔だ！
邪魔だ、邪魔だ、邪魔だ！
俺に不要の憎悪を抱かせ
かつ、彼奴の憎悪を処分しようとする俺の筋肉を
その面前で硬直させようとする彼奴の透明な歯

邪魔だ！　どけ！

俺は彼奴を憎んでいない
彼奴の歯も憎んでいない
彼奴がそのあらゆる臓腑に溜め込んだ憎悪が
俺のしなやかな筋繊維を駆動させる
俺の肉は彼奴の歯を砕くだろう
俺の肉は彼奴の歯を欠損させるだろう
俺の肉はその一瞬、憎悪に駆られているだろう
そしてその一瞬、
俺の肉も不可視の無色透明になるのだ